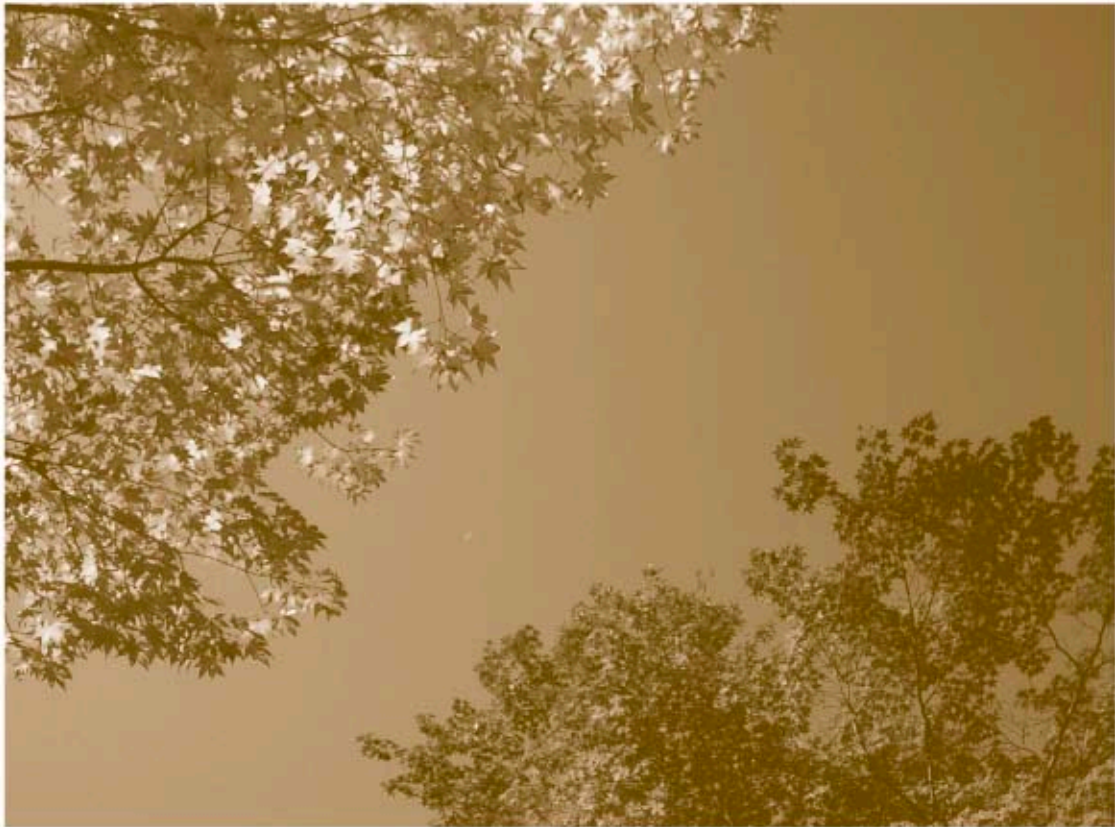




2006年秋号

地球

男女が共に生きる情報紙 VOL.70



老若男女、みんなが **イキイキ** と存心して暮らせる社会

その実現に向けて

今、私たちができることは何だろう

もくじ

- 問われる課題／なぜ女性のエンパワーメントなのか
- 「共に輝いて生きるために」感想 おじいちゃんからの意識改革を！
- 生まれた瞬間から、年をとるまで、ずっとおつきあいのできる保健所です
- エイズはみんなの問題 子どもたちを守る環境づくりを！
- インフォメーション

7月18日(火) 藤沢市役所新館7階会議室において「男女共同参画社会に向けて」と題し講演会が開催された。
広岡守穂 氏(中央大学法学部教授)のお二人をお迎えし、それぞれの講演を行った後、ディスカッションの時間

問われる課題

なぜ女性のエンパワーメントなのか

始めからかた〜いお話ですが……しかし大事なあなたの「人権」のお話ですよ。

最近、「男女共同参画社会」とか「男女雇用機会均等法」や「ジェンダー」などの用語を目にし、耳にする機会が増えてきました。しかし、「急に」と思ったのは私の勉強不足でなんとそのルーツ(?)は17~18世紀に遡るんですって。

従来、男女平等に関する問題を表現の上では、単に婦人問題といってきたのですが、女性だけの問題ではなく、男女ともに考えていかなければならないという認識になってきたのは、1970年代から80年代にかけて起こった国連による国際的な動きによるものだそうです。

それではどんな過程でここまでできたのでしょうか?

青木先生の説得力ある講演要旨を読んでください。

国連では、1960年代から女性の人権問題がくすぶっていました。露出のきっかけは開発途上国の「土地問題」。土地の所有権は男性だけで、その売り上げの利益は男性にしか還元されていかなかった。女性は労働の自由もなく、慣習によっていろいろ苦渋をしいられているのはおかしいのではないかとことごとくでした。しかし、これは開発途上国だけの問題なのでしょうか?

もしかしたら先進国の中にも潜んでいる不平等の問題なのでは? と、討議を重ね「国連婦人の10年」につながり、今日までフォローアップされてきています。1975年の「国際婦人年」をきっかけに「女性の地位向上」「女子差別撤廃条約」「あらゆる暴力の撤廃宣言」などを国連で委員会設置や決議がされました。それらは各国に持ち帰って討議され、日本は国連に後押しされるかたちではありましたが急速に法改正を進めてきました。

役職別管理職の国家公務員に占める女性の割合の推移(9級以上)

年度	総数	女性	比率(%)
1975	6,938	20	0.3
1980	8,018	42	0.5
1985	8,118	40	0.5
1990	8,789	67	0.8
1995	9,352	90	1.0
2000	9,739	122	1.3
2004	8,456	142	1.7

出典：人事院「政策決定過程への女性の参画」「一般職の公務員の任用状況調査報告」



さてその昔、17世紀にイギリスで起こった思想運動は、18世紀にフランスでルソーやモンテスキューの「人間の生まれながらにして持っている、生命、自由、財産は何人にも奪われてはならない個人個人の権利である」という啓蒙運動につながり、フランス革命の人間解放に向けても一つの支えになっていきました。3世紀も経って改めて「あれは男性だけの問題で、女性は含まれていなかったのではないか」という認識が1960年代から浮上し、「女性の権利は人権」につながっていきました。

従って「なぜ女性のエンパワーメント*なのか」は「なぜ男女平等なのか」なのです。女性の権利というのは参政権とか女人禁制のところに入るとかということではなく、女性に生まれたが故に、生命の危険にさらされていることや、人権が傷つけられているといった根源的なものです。相手を物として考えるのではなく、対等な人として考え、従属するものとして考えるのではなく、受け入れ、尊重していくという概念が相手を目覚めさせ、家庭、社会からの暴力の否定につながり、そして世界から戦争を排除していけるのではないかと思います。

女性の地位向上に向けて歩んできた最後のネックは、意思・政策決定過程への女性の進出という問題です。管理職においても上級にあがればあがるほど女性は少ない——事例として、国家公務員の女性9級(本省課室長級)以上の管理職の比率は左図の表にありますように、なかなか動かないのですが、それでも少しずつ動いています。これは、藤沢市も同じです。片方だけの性の役割が突出することは非合理的なことで、男女それぞれ自立して共生するという建設的な社会を目指したいと思います。意思決定の場に女性が登用されれば固定観念の現状打破につながると思います。女性の人材は今までチャンスがなかったからストックがないので、急には進まないが育てていくことが大事であり、男性にとっても共に育て上げるということは、共に育つということではないでしょうか。

(井戸 記)

*エンパワーメント：

力をつけること。自ら意識と能力を高め、政治的、経済的、社会的及び文化的に力を持った存在になること。

講師には青木 怜子 氏（聖心女子大学名誉教授）が設けられた。

共に輝いて生きるために感想 おじいちゃんからの 意識改革を！



講演会の資料によると、講師の広岡守穂先生は、1991年著書「男だって子育て」でベストメン賞（日本BPW連合会）を受賞された。5人の父親でもある。日本BPW連合会のベストメンということは、働く女性にとって、その年の一番すばらしい男性に選ばれたという意味、夫を連れてくればよかったと思ひながら、講演を聴いた。

そんな広岡先生、少し前におじいちゃんになられた。

ある日、家に次女が孫を連れて遊びに来ていた。見ると育児に疲れている様子、夜も寝ていないのだろう。育児は大変だなと感じたそうだ。そこで、「これから講演会がある。会場に託児所もあるから、4時間ばかり赤ちゃんを預らせてほしい」と提案、孫を連れて講演会場に行った。主催者から「講師の託児は、初めてです」と言われたが、帰宅した先生が目にしたのは、4時間前に比べて、元気を取り戻した娘さんの姿だった。先生は、娘さんの子育てをしている姿を見ながら、男女共同参画の問題について更に深く考えるようになったそうだ。

人生も円熟味を帯びるころになると、今まで気がつかなかったことが、いろいろと見えてくる。20代後半ごろ先生は、「妻に対して、自分のおなかを痛めた子どもと一緒にいられるのは、幸せなことだ」と思っていたそうだ。「幸せだが、クモの糸に絡まってしまったような、拘束感も同時に存在する」事については、全く気がつかなかった。娘さんが孫を育てているのを見て、初めて息の詰まるような拘束感に気がついたそうだ。どんなに理解のある夫でも、女性ではない。女性でなければ、見えない視点もある。先生は、愛する娘の心情に同調することによって、このことに気がついた。「おじいちゃんになってから、気づいた



青木 怜子 氏

聖心女子大学名誉教授。国際大学婦人連盟前会長。大学婦人協会元会長。専門はアメリカ史・国連。社会教育功労者賞受賞（文部科学省）、内閣総理大臣表彰（男女共同参画社会づくり功労者）

広岡 守穂 氏

中央大学法学部教授。専攻は政治学。2005年4月より佐賀県立女性センター館長に就任。内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、東京都男女共同参画会議委員、神奈川県男女共同参画審議会委員。ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員など歴任。

からといって、遅すぎるということはない。21世紀は、男女共同参画に気がついたおじいちゃんたちが、意識改革を進める時代だ」と先生は強調される。気づくことを積み重ねることがとても大切だと思った。

先生は、さらに長男に赤ちゃんが生まれたとき、孫がかげがえのない存在であることに気がついた。自分の傍らに一番大切な人たちとの思い出こそが、人生の宝物である。仕事で、昇進したことでなければ、本が売れたことでない。家族とのほんとは些細な出来事のみが、大切な思い出となることに気がついたそうである。

家事に忙殺され時間に流されるように生きている自分が少し恥ずかしかった。さっそく反省、自分を見つめなおし、家族やまわりの人との会話を少しだけ大切にしてみようと思った。それぞれが、家庭で、地域で、職場で、傍らの人々を思いやることこそ、男女が共に輝くためのスタートであり、よりよく生きることに他ならないのだと改めて強く感じた。

（川辺 記）

今年3月に改定した「ふじさわ男女共同参画プラン2010」。このプランでは、男女共同参画社会の実現に向けて、4つの目標を掲げ、積極的に施策を推進していきます。

- 目標 1 人権を尊重した男女共同参画社会形成のための意識づくり
- 目標 2 あらゆる分野への男女共同参画の促進
- 目標 3 男女の健康と自立をめざして
- 目標 4 推進体制の整備・充実

今号のかがやけ地球では、目標3から「母子健康の保持と増進」「生涯にわたる健康づくりの促進」と、目標4から「市民との協働によるネットワークづくり」として開催した講演会について取り上げてみました。

生まれた瞬間から、年をとるまで、

ずっとおつきあいのできる保健所です

今年の4月1日、藤沢市は保健所政令市として、これまでは神奈川県が行っていた保健所の業務を開始することになりました。藤沢駅から徒歩10分ほど、秩父宮体育館近くに建設された保健所は、これまで私たちがイメージしてきた

保健所（どこか堅苦しくて、入りにくい場所）を感じさせない、開放感いっぱいの建物です。明るい日差しをさんさんと取り込む一面のガラス窓。そして中に入るとロビー、廊下も実にゆとりを感じさせる広さで、車椅子2台が余裕で行き来できるほど。建物中央部には吹き抜けがあり、自然光と雨の雫にぬれた植物が鮮やかな色をたたえていました。どこからかトコトコと子どもた



ちの走る音、そして楽しそうな歓声も聞こえてきます。ここにはセミナーや講習の際に、託児ルームも設けられるそうで、今日はお母さんのための幼児食教室が開かれています。ベビーカーを置くスペースも十分！

ハード面である建物の素晴らしさがわかったところで、今度はソフト面のお話をうかがいましょう。

そもそも、県の管轄だった保健事業を藤沢市が担うことで、私たち市民にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

「これまでは“これは県の担当”とか“ここまでは市の管轄”というように、例えば生まれた赤ちゃんの体重が2500g未満は県、2500g以上は市の窓口というような感じで、縦の連携がとりにくかったんです。これからは保健に関することを一貫してこの保健所で携わっていただけるので、ますます市民の皆様にご密着した健康事業に取り組んでいけると思いますよ」（地域保健課・内田美奈子さん）

今現在、最も力を入れていることはどんなことでしょうか。

「市民健康課では、少し小さく生まれたお子様や病気をもって生活しているお子様の保健指導、思春期、生涯にわたる女性

の健康事業等が県から来たので、妊娠中から継続した母子保健ができるようになりました。そこを当面は充実させ、さらには、お母さんへのサポートももっとやっていきたいのです。子育てにおいてのお母さんたちのストレスを軽減するような取り組み、地域でどう支えていけるか。そういうところのボリュームが増えていくと思います。

もうひとつは、病気や障害をお持ちのお子様を、私たち保健という部分がどうネットワークして地域で支えていけるかというところを考えていきたいです」（市民健康課・相原陽子さん）



青少年への取り組みとは？

「青少年への性感染症予防対策や、エイズ予防などの指導、メンタルな部分、食育、10代の妊娠、たばこの問題など、青少年（思春期保健）の課題はたくさんあります」（内田さん）

さらに最近は、社会的ひきこもり等の問題についても、取り組みがすすめられているようですが。

「ひきこもりの問題は、本人よりもまずは家族の支援からと考えています。窓口相談に来ることはとても勇気のいることなので、そのための一歩としても、講演会や家族セミナーの開催を計画中です。まず、保健所の役割を知ってもらい、必要によっては専門医の相談も受けてほしいなと思います。ひとりでかかえこまないで、相談してほしいですね」（保健予防課・福岡麻実さん）

お話を伺っていると、どれもこれも私たちの健康なところと身体を取り巻く環境は深刻なものも多いたことが実感できました。保健所を訪ね、あらためて健康で元気で暮らせることの有難さと、そして市民の健康づくりのために尽力している保健所のみなさんの情熱を心強く感じました。

（中村 記）

問合せ

- 地域保健課 0466-50-3592
- 保健予防課 0466-50-3593
- 市民健康課 0466-50-3522

エイズはみんなの問題

子どもたちを守る環境づくりを!



藤沢市では*HIV/エイズ、性感染症に対する正しい知識の普及や感染予防などの取り組みが行われている。最近の傾向や特徴、対策などについて、藤沢市保健所、保健予防課の医師原田 久さん、保健師の宮崎 晃子さんにお話を伺った。

日本のHIV感染者・エイズ患者は年々増えている。特に男性の増加が著しい(図表参照)。年代別では20代、30代が約6割以上を占める(薬害エイズは除く)。



予防啓発の視点で、原田さんが問題視するのは、若い人ほど感染者の男女比は1対1に近く、年齢が上に行くほど男性の比率があがる点である。つまり、若い人は男女の1対1の関係で感染しているのに対して、年齢があがるにつれ男性は、不特定多数の人との性行為で感染している傾向がある。

「不特定多数の人と性行為することがリスクファクターであると伝えることは、40代や50代の人には正しい知識かもしれませんが、若い人には必ずしも正しいとはいえません。1対1で付き合っていくなかで、感染する可能性があるからです。」(原田さん)

(財)エイズ予防財団がつくったポスターに「彼氏の元彼女の元彼の元彼女の…の元彼を知っていますか?」というコピーがある。宮崎さんは「自分とは関係ないと思わず関心をもってほしい」と話す。

性行為の低年齢化が危惧されているなか、思春期の子どもを持つ親としても、決して無関心ではられない。インターネットや雑誌には刺激的で雑多な情報があふれ、街ではピンクチラシが配られる。日常的に子どもたちはそういうものに触れている。心配なことばかりだ。さらに原田さんの次の指摘に、問題の深さを痛感した。

「エイズが増加する一方、2002年頃を境にクラミジアや淋

菌といった性感染症の罹患率と10代の人工妊娠中絶は減少しています。予防啓発活動の結果が実を結んだという見方がありますが、私はそうは思っていません。あくまでも仮説ですが、私は最近の若い人たちは、コミュニケーション能力が低下して、現実の人間に向き合えず、仮想の世界で満足するなどのため、彼女や彼氏をつくることができず、セックスもできなくなって、その結果として性感染症が減っているのではないかと考えています。若者の性行動をコミュニケーションの問題として捉えるならば、一方では安易なコミュニケーション手段としてセックスをする人たちもいるかも知れません。」

コミュニケーション能力の低下が問題の根底にあるならば、どのような対策があるのだろうか。原田さんは次のように話す。

「コミュニケーション能力がないのは子どもだけの問題ではなく、本当は大人の問題です。性の問題は価値観にもからんでくることだけに、学校で一律に教えるには限界があります。しかし、親も何をどう教えたらいいのかわからない。だからこそ、家庭や地域社会、学校など、子どもたちを囲む大人がコミュニケーションをとりあって、性教育のあり方などについて逃げずに正面から率直に話し合い、子どもたちを守る環境づくりをしていくこと。それが根本的な問題を解決する方法ではないかと考えています。」

現在、その取り組みの一環として、藤沢市保健所では市内の一部の小学校で保護者と教職員を対象としたワークショップを開催する準備を進めている。コミュニケーションをベースにした性教育のモデル開発の取り組みである。また、子どもたちに正しい知識を伝えるために、小中学校に講師として出向くことも積極的に行っている。特に今年は市民に身近な存在として開設された市の保健所のメリットを生かして、教育委員会との連携をとっていきそうだ。こうした保健所の新しい取り組みを市民としても支援したいと思う。

(松永 記)

* HIV/エイズ(後天性免疫不全症候群)とは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)が人に感染した結果、免疫不全状態となり、日和見感染症や二次性悪性腫瘍、神経障害をきたす病気をいいます。全経過をまとめてHIV感染症と呼び、エイズという名称は、発病後の状態に限定して用いられるようになっています。

感染源となるのは、血液、精液、膈分泌液で、日常的な接触によって感染することはありません。蚊などを媒介とした感染もありません。

【エイズ読本】((財)エイズ予防財団)より

保健所ではエイズ相談・検査を無料で実施しています。

問合せ TEL. 0466-50-3593

インフォメーション

男女共同参画課からのお知らせ

共に生きるフォーラムふじさわ2006を開催します!

共育てで共に生きる(講演会)

- 講師: 蟹瀬 誠一氏
(国際ジャーナリスト・ニュースキャスター)
- と き: 11月18日(土) 13:30~15:30
- 場 所: 藤沢市役所 新館7階 第7会議室
- 定 員: 150名(申込み順) 参加無料
- 申込み: 電話・FAX・メールのいずれかで
①住所 ②氏名(ふりがな)
③電話番号 ④保育(2歳以上就学前)の有無(こどもの
名前・年齢)を記入のうえ、男女共同参画課内 共に生きる
フォーラムふじさわ2006実行委員会へ(保育申し込みは
11/9(木)締切)



公民館の主な催し

問合せ・申込みは各公民館へ

鵜沼公民館まつり 鵜沼シンポジウム2006

鵜沼公民館 ☎33-2001

- 内 容: 「今 いちばん言いたいこと」
講演とグループに分かれてのフリートーク
- 講 師: 石井 志昂氏 ■日 時: 10/14(土) 13:30~16:15
- 対 象: 市民一般 ■会 場: 鵜沼公民館1階ホール
- 申込み: 当日直接来館(申込み不要)

アロマとハーブの講座

片瀬公民館 ☎27-2711

- 内 容: 初心者向けにアロマセラピーとハーブに関する講義と実習
- 日 時: 11/8, 15, 22(水)全3回 10:00~12:00
- 対 象: 成人女性15名 ■申込み: 10/18(水)電話または来館

教育文化講演会

片瀬公民館 ☎27-2711

- 内 容: 「子どもを伸ばすために親にできることは?」
- 講 師: 親野 智可等氏 ■日 時: 11/9(木) 10:00~11:45
- 対 象: どなたでも ■申込み: 10/17(火)電話または来館

善行の底力

善行公民館 ☎81-4431

- 内 容: 子どもを犯罪から守る地域づくり
- 講 師: 小宮 信夫氏 ■日 時: 11/25(土) 11:00~12:30
- 対 象: どなたでも ■申込み: 当日直接来館(申込み不要)

教育文化のつどい

善行公民館 ☎81-4431

- 内 容: 「食べる力は生きる力」 ~どこでなにを食べますか~
- 講 師: 大村 直己氏 ■日 時: 12/9(土) 13:30~
- 対 象: どなたでも ■申込み: 当日直接来館(申込み不要)

労働会館の講座

申込み・問合せ ☎26-7811

就職支援セミナー

- 内 容: 就職のプロセス、選考選択、応募書類の書き方、面接対策ほか。
- 日 時: 11/7(火)、12/5(火)、1/10(水)
① 正社員希望者対象.....13:00~17:00
② パート・アルバイト希望者対象.....10:00~12:00
- 対 象: 市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各36人
- 申込み: 広報ふじさわ各月10日号に掲載

就職支援個別カウンセリング

- 内 容: 就労に向けた相談に個別にアドバイスします。
- 日 時: 11/2, 9, 16, 30・12/7, 14, 21・1/11, 18, 25
(全木曜日)
10:00~16:45(但し、毎月最終日は13:00~18:45まで)
- 対 象: 市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各5人
- 申込み: 広報ふじさわ各月10日号に掲載

かがやけ地球は市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。
編集スタッフ: 井戸君江・川辺裕子・中村博子・松永美佐寿

成人式振袖

七五三

卒業式袴

貸衣裳



NISHIKI

- 藤沢店 0466(23)1918
- 茅ヶ崎店 0467(85)4390
- レンタルブティック 0466(23)5235

Grand Hotel SHONAN*



All for the Guest.

すべては、お客様のために...

ご予約/お問い合わせは

☎0466-22-1311

http://www.shonanhmg.co.jp/fujisawa
〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町11番地

inamotoya.com



アクティブミセスからシニアまでの
快適生活をサポートする

ユニバーサルファッション・ショップ

オシャレで、着心地の良い服を
豊富に取り揃え、
皆様のご来店お待ちしております。

日経流通新聞、暮らしの手帖、
テレビ朝日などの掲載店

藤沢さいか屋2F・JR藤沢駅北口すぐ TEL&FAX 0466-22-3109

藤沢・茅ヶ崎・寒川 "湘南"がエリアのFM放送局



http://www.radioshonan.co.jp

STUDIO FAX No.0466-29-2121